

2012年7月8日「対象の位置」 石川祐司教会長

<訓読のみ言>

『天運と聖霊の宿る八大教材・教本』

第三章天一国入籍 第二節「天福」を受ける家庭とは

(三)一つになること

私たちは、このみ旨の道を歩みながらも、教会と距離をおきやすいのです。教会と私の関係を見て見るとき、教会の中にいる私ではなく、私自身を中心として教会活動をする場合があるということです。教会全体を中心として教会の前にいる私自身とならずに、第三者の立場に立つようになれば、教会と距離が遠くなり、教会に対する関心がなくなります。刺激がないということです。そのようになれば、教会と自分との関係がだんだんと希薄になります。そうなれば、必ず、教会生活が疎かになる立場に陥るまいとしても、陥らざるを得ません。

このような立場で考えてみると、今年はどうのよにしなければならぬのかということが問題になるので、皆さんは教会全体を代表して主体的に活動しなければならず、その活動において皆さん自身が孤立してはいけません。孤立した立場に立たずに、主体と歩調を合わせていくのです。(42-96、1971・2・28)

自分の位置を離れて、関係を失ったのが墮落の根源です。神様のみ言どおりに行動しないのは、墮落の始まりです。ですから、はっきりと言えることは、自分の位置を知って、組織圏内に入って関係を結ばなければならないということです。そのためには、自分が必ず、相対の位置に立たなければなりません。自分が天的作用をし得る団結力を、そこで現わさなければならぬのです。このことを、皆さんの頭の中で、いつも忘れないように考えていかなければなりません。

ですから第一に組織です。組織は何のためですか。位置を決定するためです。第二に団結です。その位置を決定した基準を中心として、自分は主体に対して対象を位置を決定しなければなりません。そして、一つになるためには、一つの目的をもって、一つの世界に向かわなければなりません。目的に向かっていくのに、統一された行動がなくてはならないのです。この原則を忘れては何もなりません。皆さんの上下関係を忘れてはいけないということです。

(15-192、1965・10・9)